

社団法人日本新体操連盟

平成 22 年度第 1 回総会議事録

1. 会議名： 平成 22 年度第 1 回総会
2. 日時： 平成 22 年 6 月 22 日（火） 11 時 30 分～12 時 10 分
3. 場所： 東京都渋谷区代々木 2-2-1
「小田急ホテルセンチュリーサザンタワー・21F イーストルーム」
4. 構成員現在数： 568 名
5. 出席会員数： 451 名（うち委任状出席者 427 名）
以下出席会員
COSMOS、NOVA 新体操クラブ、Ribbon 新体操クラブ、Shaleur R.G、
Shaleur R.G.C、Shaleur R.G.U、Sweet ピュア R.G、ウーマンズ RG、
ウーマンズ新体操クラブ、グレース、コナミススポーツクラブ本店、
ジャスコマリンプピア、ジャスコユーカリが丘、ジャスコ行徳、
ピュア R.G、ふじしまジュニア新体操クラブ、ふじしま新体操クラブ、
東京ジュニア新体操クラブ、飛行船 RG
6. 欠席会員数： 117 名
7. 出席役員： 二木 英徳（会 長）朝倉 正昭（副 会 長）石崎 朔子（副 会 長）
福本 隆（副 会 長）渡辺 守成（常務理事）池田真喜子（理 事）
岡 久留実（理 事）崇島 慎一（理 事）谷口 裕代（理 事）
橋本 千波（理 事）藤島八重子（理 事）
荒井 隆（専務理事）関田史保子（常務理事）秋山エリカ（理 事）
上村 郁代（理 事）山崎 浩子（理 事）谷原 誠（理 事）
田中 元（監 事）
以上 17 名（うち委任状出席 6 名）
その他監事 1 名（うち委任状出席 1 名）
8. 欠席役員： 岩本 晃（監 事）
以上 1 名
9. 議案：
決議事項
第 1 号議案 平成 21 年度事業報告承認について（定款第 5, 29, 39 条関連事項）
第 2 号議案 平成 21 年度収支決算報告承認について（定款第 29, 39 条関連事項）
第 3 号議案 その他
10. 議事の経過及び結果
 - (1) 議長による開会宣言
（社）日本新体操連盟・定款第 28 条の定めにより議長を会長二木英徳が勤め、開会宣言を行った。
 - (2) 議事録署名人の選出
定款第 32 条により、議長は議事録署名人を朝倉正昭副会長と石崎朔子副会長にする事を議場に諮り承認された。
 - (3) 定足数の確認
定款第 30 条により総会出席者数委任状含めて 451 名であることが岡久留実理事より告げられ、議決定足数を満たしている事が報告された。
 - (4) 議決事項
第 1 号議案 平成 21 年度・事業報告承認について（定款第 5, 29, 39 条関連事項）
議長は説明者として石崎朔子常務理事を指名し、石崎常務理事は下記内容の説明を行った。

1. 平成 21 年度登録状況報告について

平成 21 年度は

加盟団体数	568 団体
登録選手数	8,767 名
愛好者数	35,937 名
審判員数	1,118 名
指導者数	1,415 名

であった。22 年度もクラブ登録数は増える見込みである。加盟クラブの皆様方とともに新体操の環境向上に努めていきたい。

2. 「第 18 回全日本新体操クラブ選手権」について

8 月 25 日から 27 日に東京都「東京体育館」にて開催された。

参加者は 192 クラブ 576 名が参加したが、前回大会に比べ減少している。これは、12 歳から 15 歳となっていたジュニアの年齢構成を「世界基準」に合わせ 13 歳から 15 歳と変更したためである。この変更は世界基準の大会運営、選手強化を行い、日本が世界で活躍できるための変更であり、今後、選手層の増加から、大会参加者数が増え、世界での活躍につながるものと考えている。

大会では「飛行船新体操クラブ」が初優勝、個人戦でも井上実美選手がシニアで、七尾真結選手がジュニアでともに初優勝を遂げた。

3. 「第 10 回日本新体操祭」について

毎年「イオンカップ」と同時開催している「日本新体操祭」であるが、21 年度は「世界選手権三重大会」開催のため、「イオンカップ」を休止した関係上、「スポーツ健康フェスタ東京」と同時開催した。

会期は 8 月 29 日に「東京体育館」で開催し、参加者数は 43 クラブ 1492 名であった。

サブアリーナなどでスポーツと医療についての学会発表会などあったが、「日本新体操祭」が最も盛況で、会場もほぼ満員であった。

22 年度は「イオンカップ」と同時開催する例年通りの開催を予定している。

4. 「第 29 回世界新体操選手権三重大会」について

大会は 9 月 7 日から 13 日にかけて三重県伊勢市の「三重県営サンアリーナ」にて「世界選手権」が開催された。

本連盟では、今大会の広告スポンサー協力やテレビ放映関係などを中心に大会協力を行った。世界 51 カ国 289 名の選手が参加し、フジテレビでも 2 日続けて放送された。

団体戦では、日本チームの「フェアリージャパンポーラ」が種目別リボン&ロープで 4 位に入り、メダルまであと一歩という活躍を見せてくれた。個人戦では「北京オリンピック」金メダリストで「イオンカップ 2008」の覇者でもあるロシアのエフゲニア・カナエワ選手が 92 年のオクサナ・コスティナ（ロシア）以来 17 年ぶりの個人種目 5 冠を達成した。同じくロシアのコンダコワ選手が 3 種目で銀メダルを獲得し、王国ロシアの強さを見せつけた。「イオンカップ 2010」でもこの選手たちが中心の戦いになるものと思われる。

5. 「第10回全日本新体操クラブ団体選手権」について

9月20日東京都「東京体育館」にて開催された。

参加者は110クラブチーム704名が参加した。

前回大会と同様の参加人数であったため、競技進行を前回同様に行ったが、「北京オリンピック」後のルール変更に伴い、審判業務に時間がかかり、競技進行が遅れぎみであった。そのため第10回大会では同様の参加チーム数の場合、2日間開催を予定している。

シニアの部では「クラブ選手権」に引き続き「飛行船新体操クラブ」が初優勝、ジュニアでも「舞エンジェルスRG」が初優勝を飾り、新しい力が芽生えていることを証明した。

出場権のかかっていた「全日本」へは、「飛行船新体操クラブ」と2位の「町田RG」が出場権を獲得した。

6. 「第12回全日本新体操チャイルド選手権」

「第9回全日本新体操キッズコンテスト」について

毎年参加者数が増え続けている本大会であるが、今回は411クラブ931名の参加者を集め、2月26日から28日にかけて「東京体育館」にて開催した。

ルールを前回大会同様に開催した今大会は、5・6年生の部で「チェルシーRGC」古井里奈選手が、3・4年生の部では「エンジェルRGカガワ日中」の喜田純鈴選手が優勝した。

「北京オリンピック」後のルール変更により、難度も変わってきたので、難度を中心としたルール変更を行う予定。新ルールは7月を目安にでき次第案内差し上げる予定。

7. 「平成21年度セミナー」について

「初級集中講義」を2回

「上級セミナー」を7回

「審判セミナー」を3回

実施した。海外セミナーは募集人数に達しなかったため、中止とした。

以上の説明の後、議長は質疑、意見等を求めたが発言は無かった。

以上の後、第1号議案「平成21年度・事業報告承認」について可決された。

第2号議案「平成21年度・収支決算報告」について（定款第29,39条関連事項）

議長は説明者として渡辺守成常務理事を指名し、渡辺常務理事は下記内容の説明を行った。

資料には平成21年度の予算と実績を記載し、差異の大きいところを説明していく。

1. 事業収入

「日本新体操祭」について

例年「イオンカップ」と同時開催していた本大会は、今回、別開催のため、参加者が減少する事を見込み、予算を400万円としていた。しかし、例年と同規模の参加があり、予算額に対し、約180万円増の581万4858円の収入であった。

「バッジテスト」について

当初21年度導入を予定していた「バッジテスト」であるが、「選手強化のためのバッジテスト」なのか「普及施策としてのバッジテスト」なのか、導入意義や理念に合意を見つけないことができず、現状として会員の皆様にご満足いただける内容の物が完成せず、21年度は導入を見送った。皆様に満足頂けるものを提供できるよう色々な角度

から検討を続けており、今しばらくお時間をいただきたい。

「世界選手権」について

「世界選手権三重大会」では、三重県開催ということで、スポンサー収入が減収するものと予想し収入予算を1億1500万と計上していた。しかし、二木会長のご尽力により、当初予算より約7000万円増の1億8622万1535円の収入があった。

支出については、フジテレビの2日間のテレビ放映権購入費用、三重県実行委員会への協力金、日本体操協会への冠協賛料支払い金、スポンサーの三重大会へのご招待費用などで1億7621万3842円の支出となった。

「指導者海外研修会」について

「指導者育成海外セミナー」が参加者が募集人数に達しなかったため、中止とした。そのため、収入、支出ともに0円となっている。

2. 合計

以上により、平成21年度事業活動収入合計は2億4911万2208円。事業費支出計が2億1239万9829円。管理費がほぼ予算計上通りで3414万4653円。事業費支出と管理費を合わせ、2億4654万4482円が21年度の支出合計となり、21年度単体での収支差額は256万7726円となった。

前期繰越金803万5789円と昨年度大会運営引当金882万1859円を戻し入れ、当期収支差額256万7726円を合わせた1942万5374円が次期繰越となった。

3. 貸借対照表、財産目録

21年度収支が256万7726円の黒字決算であったため、22年3月31日時点の正味財産は、昨年度より256万7726円増加し、基本財産、資産等含め4104万9430円となった。

4. 監事承認

この決算内容は本連盟監事兩名より、承認いただいていることを合わせて報告する。

以上の説明の後、議長は質疑、意見等を求めたが発言は無かった。

以上の後、第2号議案「平成21年度・収支決算報告承認」について可決された。

第3号議案「その他」について

議長は議場にその他議案の提出を諮り、出席者の「ウーマンズ新体操クラブ」佐藤氏より下記の質問と提案をいただいた。

1. 「登録申請方法」について

今回平成22年度登録申請の際、指導者の欄に番号を書く欄があった。事務局に問い合わせ、審判認定番号を記入する事は分ったが、個人に振り分けられる選手IDや指導者IDなど何を書けばよいのか分からなかった。もっと明確にしてほしい。

2. 「クラブ選手権」について

毎年「クラブ選手権」が8月末に開催されているが、最近学校では2期制を採用しているところが増え、8月末だと学校が始まっていることが多くなってきた。その点を考慮して大会開催時期を検討してほしい。

上記質問・要望について池田真喜子理事が下記のように返答した。

1. 「登録申請方法」について

新体操連盟と県体操協会の登録方法が違うため皆様が混乱することもあるかもしれない。新体操連盟の登録では指導者の欄に審判認定番号を記載するところがある。これはわかる範囲で記入していただいているものである。指導者、選手のID番号について新体操連盟では事務局内部のデータ管理上に使用しているものがあるが、登録申請時に皆様にご利用・記入いただいているものはないので、指導者、選手のID番号は新体操連盟の登録では必要がないことをご理解いただきたい。

2. 「クラブ選手権」について

22年度についてはすでに案内、募集等しているため変更は難しい。23年度以降については、他競技団体が毎年開催しているイベントの時期などにより体育館のスケジュールが関係してくるため、体育館の事情により調整できるかわからないが、できるだけ調整するように努めたい。

(5) 閉会宣言

議長は他に質問、意見がないのを確認し総会の終了を宣した。

この議事録が正確であることを証するため、議長ならびに議事録署名人は次に署名押印する。

平成 22 年 6 月 22 日

社団法人 日本新体操連盟 平成 22 年度第 1 回総会

議 長 二 木 英 徳



議事録署名人 朝 倉 正 昭

同 石 崎 朔 子